

前橋市観光ビジョン【概要版】

令和8年度～令和17年度

策定の目的

将来にわたる前橋観光の方向性を共有し、まちが一丸となって「**持続可能な地域観光【稼ぐ地域観光】**」を実現することを目指すため、「前橋市観光ビジョン」(以下「本ビジョン」)を策定します。

計画期間

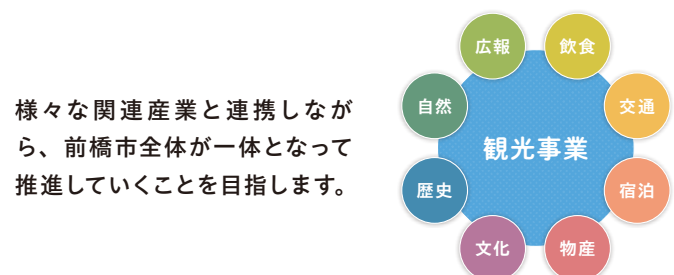
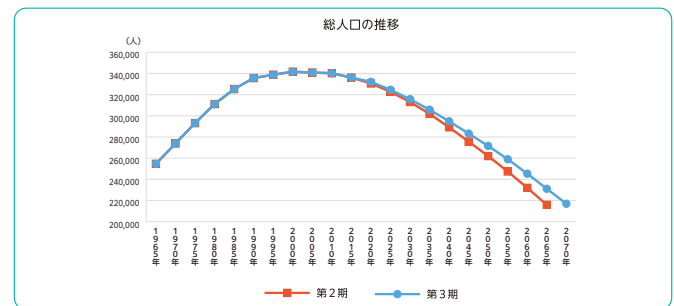
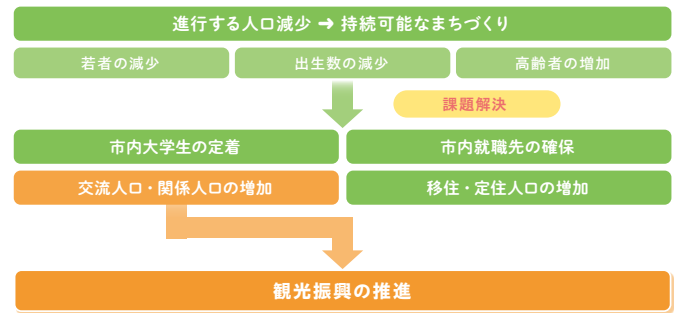
令和8年度から令和17年度までの10年間を通じて**持続可能な地域観光【稼ぐ地域観光】**の実現を図ります。また、5年を区切りとして令和12年(2030)年度に中間的な見直しを行うこととします。



観光の位置付け

人口減少が進む中、消費額や経済活動の維持、また地域の活力を維持・向上させるためには、『観光』を通じた「**交流人口**」や「**関係人口**」の創出が重要になります。

■前橋版総合戦略における観光事業の位置づけ

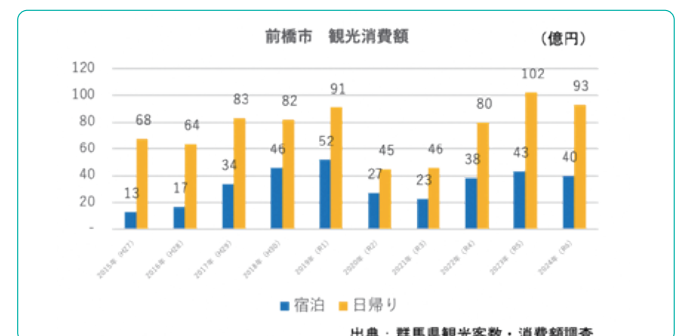


データから見る前橋市の現状

客観的にみた前橋の現状を把握すべく、統計データ等による分析を実施

データ分析概要

- 観光入込客数は多いが、観光消費額や宿泊数が少ない
- 前橋市を訪れる目的はあるが滞在する理由が乏しい
- 滞在型観光に伸びしろが期待できる



前橋市の目指す観光の姿

前橋市観光ビジョン ✦ 10年後の前橋観光の目指すべき姿

「雄大な赤城山の自然」と「まちなかに息づく豊かな文化」による魅力を繋ぎ合わせ、前橋にだけ流れる時間をゆったり楽しむ滞在型の観光スタイルの実現を目指します。

『赤城の自然とクリエイティブの街が紡ぐスローリゾート前橋』

コンセプト

赤城南麓エリアでは、深呼吸したくなる豊かな自然、ゆったりとした時間の流れ、多彩なアクティビティ、四季折々の風景、地域の食文化、歴史や文化の体験、そして赤城南麓に広がる田園や緑豊かな自然がどこか懐かしい日本の原風景として訪れる人の心を惹きつけます。

一方、まちなかエリアでは、アートや文学、広瀬川・馬場川の水辺空間、レトロな商店街のノスタルジーと新しいクリエイティブが共存する街並みが魅力です。

この二つを柱を軸に、**日常の延長を過ごすという本来の「リゾート」の意味に立ち返り**、時間や自然をゆったり楽しむことに重視した「スローリゾート」として、自然と文化、人と人を紡ぐストーリー性を大切にし、前橋市の日常の姿を高次化／高質化して提供していきます。

ビジョンの基本的な方針

目指すべき姿	3つの視点	取組みの方向性	推進施策
スローリゾート前橋 赤城の自然とクリエイティブの街が紡ぐ	創る	(1) 稼ぐコンテンツを創る	①スローリゾートを体現するコンテンツ(商品)の造成 ②既存の魅力の磨き上げ・再編集
		(2) 環境を創る	①推進体制の構築 ②スローリゾートとしてのブランディング
	拡げる	(3) ターゲットに向けた効果的なプロモーション	①データに基づくターゲット分析 ②ターゲット(情報の受け手)を見極めた情報の発信
		(4) 国内外からの誘客促進	①受入環境整備(ホスピタリティの向上) ②広域的な連携
	共感する	(5) シビックプライド醸成	前橋市民総アンバサダー(宣伝大使)化
		(6) 前橋ファンづくり	①交流人口・関係人口の創出 ②ファンを担い手へ

ビジョン実現に向けたロードマップ

- STEP1 ビジョンに沿った体制整備やプロモーションを通じて、観光目的の来訪を増やす。
- STEP2 滞在時間を延ばす取り組みを通じて、宿泊を伴う滞在型観光を増やし観光消費額をUP
- STEP3 観光消費を地域への投資に繋げ、地域産業の活性化とともに雇用創出へ
- GOAL 「持続可能な地域観光の実現」、すなわち「稼ぐ地域観光」を実現

モニタリング指標

ランドステーション赤城の入込客数：7.4万人(2024年実績値)
前橋市入込客数調査

